

交通安全だより第9号

I. 9月の安全運転管理について

1. 行動特性を知り、交通事故を防止しましょう

～高齢運転者に配慮した運転を～

- 高齢者は加齢により身体の様々な機能が低下します。
- ・ 視力、視野の低下→周囲の交通状況の認識が難しくなる
 - ・ 認知機能低下や反射神経の鈍化→とっさの対応が遅れる
 - ・ 運動機能の衰え→素早い運転操作ができなくなる

こうした高齢運転者の特徴を理解して、高齢者マークをつけた車を見かけたら、車間距離を詰めたりして運転を急かさず、高齢運転者に配慮した運転をするようにしましょう。



～高齢者の行動特性を知ろう～

高齢者の歩行中の死亡事故の大半は、道路横断中に発生しています。なかでも、横断歩道以外の場所を横断して事故に遭うケースが後を絶ちません。高齢者は体力の低下などから、横断歩道まで歩くのを面倒がって横断歩道以外を横断することがあります。運転中に高齢者を見かけたらスピードを落とし、その動静を確認するようにしましょう。また、道路の右側から横断してくる高齢者との事故も多発していることから、道路右側への注意も怠らないようにして下さい。

～自転車の次の行動を予測して自転車を事故から守ろう～

自転車乗車中の人の中には、突然道路を横断しようとして進路を変更したり、交差点で一時停止や減速せず飛び出して来たりするなど、事故に繋がる危険な運転をする人がいます。自転車に乗る人はこのような危険な運転をしないようにしましょう。一方、ドライバーは、自転車を見かけた時は、安易に追い越そうとせずその動静を確認して、次の行動を予測しておきましょう。また、見通しの悪い交差点では、飛び出してくる自転車を想定した運転を心がけましょう。

2. 慣れてきたときこそ危険、こんな運転していませんか？

運転に慣れてくると緊張感が薄れ、知らず知らずのうちに事故につながる危険な運転をしていることがあります。次のような運転をしていないかセルフチェックしてみましょう。



ショートカット気味の右折

先を急ごうとしてショートカット気味に右折すると、右折先の横断歩道上の歩行者、自転車を見落としやすくなります。右折時は交差点の中心のすぐ内側を徐行する正しい右折を徹底しましょう。



運転中のスマートフォンの使用

運転中のスマートフォンの使用は、危険の見落としや発見の遅れにつながり、事故に直結します。スマートフォンは、安全な場所に車を止めてから使用しましょう。



一時停止しない

一時停止の標識がある交差点で、一時停止せずに通過しようとする、歩行者や自転車との出会い頭事故につながります。一時停止の標識や標示のある場所では確実に一時停止しましょう。



夕方になってもライトを点灯しない

夕方は明るさが急激に低下し、視認性が悪化することから、危険を見落とすリスクが高まります。日没の1時間前には、ヘッドライトを点灯しましょう。



II. 今月の交通ヒヤリハット

・ 事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	帰宅途中
どこで	反対車線との間に背の高い樹木が植えられている（植樹帯）一般道
何をしている時に	片側2車線の右側を走行中
どうなった	植樹帯からいきなり人が出てきたのが見えてヒヤリとした

Ⅲ. 今月の事故事例

◆事故の発生状況

令和〇年9月某日 午前9時40分頃 天候：くもり

◆事故の当事者

A / 男性39歳 2トントラック運転

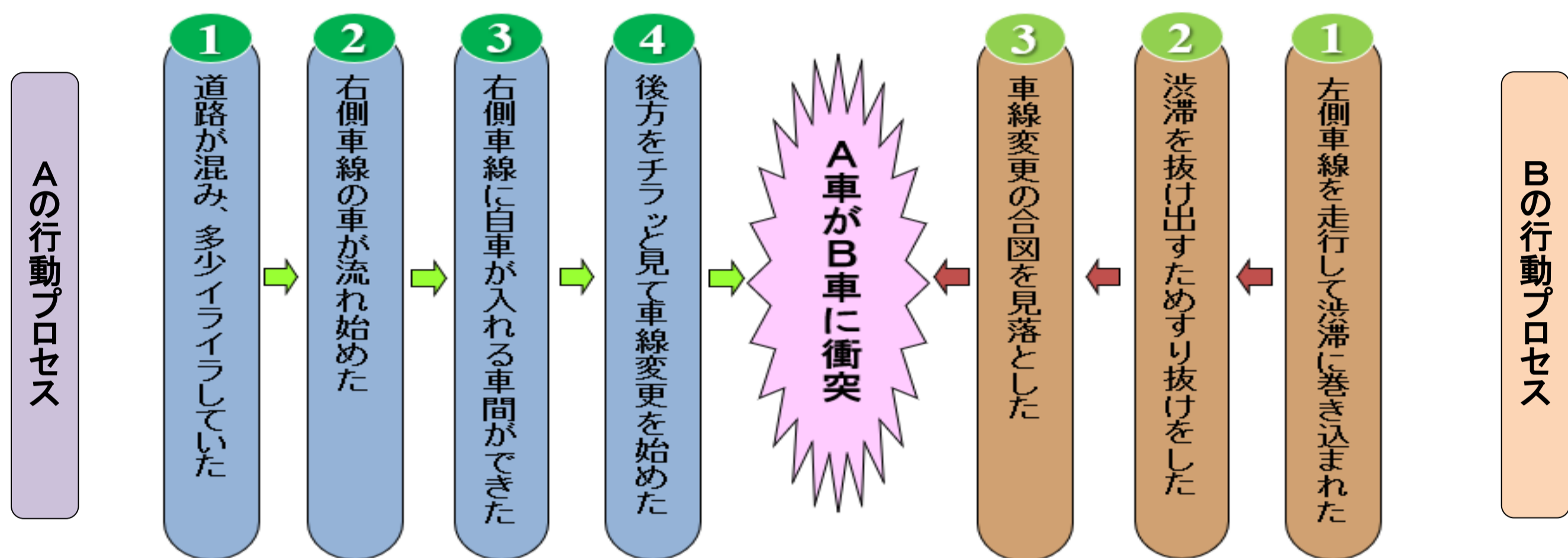
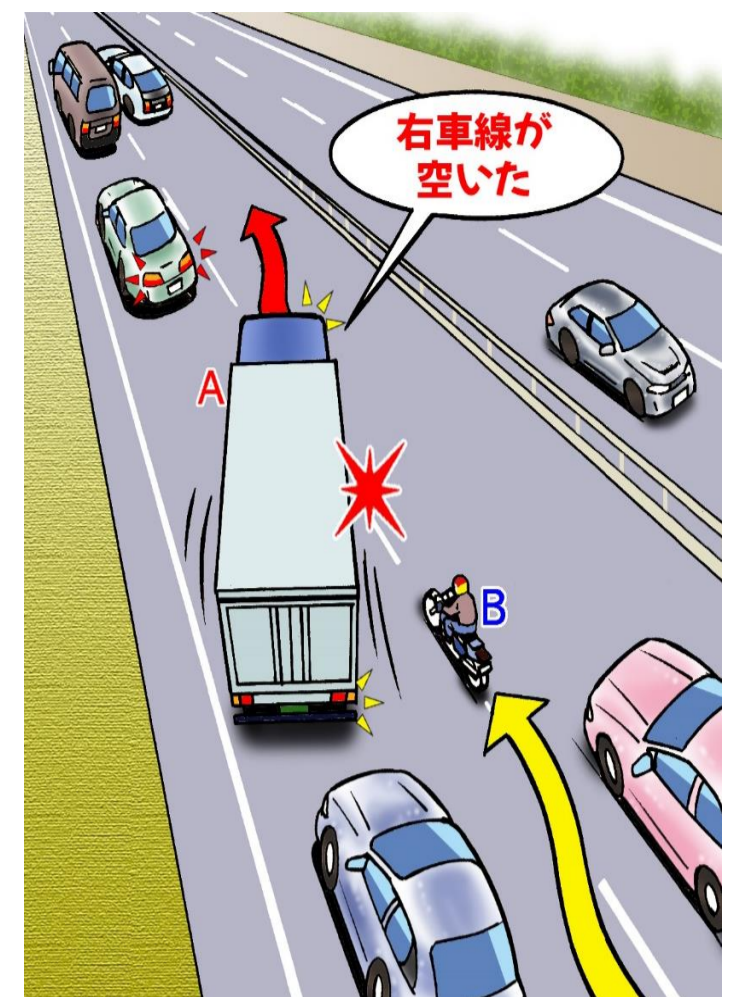
B / 男性24歳 自動二輪車運転

◆事故の発生概要

Aさんは、食品会社で2トントラックを運転し、県内の小売り店に商品を配達しています。事故当日も、朝礼のあと、配達する商品を確認し、いつも通り片側2車線道路を走行していたところ、数キロ先で発生した交通事故で渋滞に巻き込まれました。

最初は左側車線を走行していたのですが、渋滞のためなかなか前に進まないことから、多少イライラしてきました。そして右側車線の車が流れ始めたら車線に移ろうと機会をうかがっていました。しばらくして右側車線に車線変更ができるだけの車間距離が空いたことからミラーでチラッと後方を確認し、合図を出してすぐにハンドルを切ったところ、後方から車間を縫って走行してきた二輪車を見落として衝突してしまいました。

一方のBさんは、バイク便の会社に勤務し、配達の指示を受けて自動二輪車で配達先に向かっていました。最初は左側車線を走行していたのですが、道路が渋滞してきたため、少し危ないと感じながら渋滞している車両の間をすり抜けて走行していたところ、A車が出した合図を見落として衝突されました。



類似事故を起こさないために運転者の対策は

●すり抜ける二輪車を意識して安全確認を徹底する

渋滞道路での車線変更はしないこと。やむを得ず車線変更する場合は、ミラーだけではなく目視で安全を確認してから合図を出し、もう一度安全を確認してから行う。

●危険なすり抜けは行わない

渋滞車両の間を走行する二輪車のすり抜けは、ドライバーから見落とされやすく、運転操作を誤り渋滞車両と衝突するおそれがあるため絶対にやめておく。

ワンポイントアドバイス すりぬけ事故パターンを知っておこう

四輪ドライバーが二輪車の走行特性を理解して運転することは、二輪車との事故を防ぐ大切なポイントになる。とくに、二輪車のすり抜け行為が、次のような事故に結びやすいことを頭に入れ二輪車との事故を防止しよう。

- ①右折車と対向車の横をすり抜けてきた二輪車の事故
- ②左折車と左後方からすり抜けてきた二輪車の事故
- ③開いた車のドアとすり抜けてきた二輪車の事故
- ④渋滞車両の間をすり抜けてきた二輪車との事故



以上